

また、一年を振り返り、お手紙を差し上げる時期がきました。

2001年は初めてのメキシコ旅行に始まりました。カンクンという所に行きました。マヤ文明の遺跡があって、海がとてもきれいな所です。（一味はもちろんダイブに行きました。）観光の町とは聞いていましたが、税関検査を受ける前からすでに業者の勧誘が盛んに行われているという商魂のたくましさに驚かされました。

その後は、由紀子も一味も公私とも旅行が多かった年だと言えます。由紀子は1月に2度LA、2月のセントルイス、3月と4月はシカゴ、9月のコロラド、10月のハワイ、11月のワシントンDC、12月のニューオーリンズ。一味のほうは2月のセントルイス、3月にフロリダとシカゴ、五月にプリンストン、10月のハワイ、11月のワシントンDCと飛び回っていました。（一応仕事なのですが、きちんと息抜きも入っていました。ワシントンDCの空港はテロ事件のせいで、便数が減り閑散としていました。）二人とも夏休みの間は日本に一ヶ月ほど行き、由紀子はお茶大で講演をし、一味は日本語教育学会のワークショップを行いました。（今年の日本は本当に暑かったです。頭がぼーっとしました。）その間に、一味の父と一緒に宇和島（由紀子の実家）に帰り、さらにそこから実家のお母さんも含めた四人で九州の湯布院に行きました。料理がとてもおいしい旅館で温泉共々満喫しました。（旅行先からさらに旅行することになり、頭がややこしくなりました。）東京に戻ってから、今度は二人で沖縄に初めて行きました。NHKは米国でも見られ、今年朝ドラの「ちゅらさん」を毎日見ていたところだったので、沖縄旅行も楽しめました。本物の「おばあサターアングァー」にも座間味島で会いました。（こんなに旅行ばかりしているとひんしゅくをかいそうですが、勘弁してください。）東京では一味は恒例になった小学校の同窓会に出席しました。（まだ、マンネリにはなっていない、と思っている。）

まじめな話では、由紀子は準教授(Associate professor)に、一味は教授(professor)に昇格しました。由紀子はこの昇格で永久就職権を獲得したことになります。由紀子はアイオワ大学で周辺地区のためのスピーチコンテストを催しました。教科書の「なかま」も成績好調で出版社は喜んでます。一味のほうはコンピュータ関連のプロジェクトを続けています。来年の初めには「日本語教師のためのITリテラシー」という本が出版されます。また、9月のニューヨークテロ事件の後で、アイオワ大学からの呼びかけで千羽鶴を送ろうということになり友人の大学関係者に声をかけた結果、一ヶ月ほどで16校合わせて

一万羽をこえる折り鶴ができあがり、ニューヨークに送りました。現在は赤十字のセンターに飾ってあるそうです。（少しでも励みになればと思います。）

実は今年は私達にとってとても大切な友人を三人失った年でもありました。ウォルターとエドナ・ウェック夫妻は大学院時代には優しいホストファミリーとして我々の面倒を見てくれました。また、我々の結婚式にもアメリカから出席してくれました。もう一人は堀田真澄さん。彼女とも大学院時代からのつきあいでした。ご冥福をお祈りします。（もう一匹、ミネソタの加賀さんのところに行った初代ミーチャンも高齢のため猫の天国に行きました。加賀さん、最後まで手厚い看護をしてくださってありがとうございました。）

今年のサンクスギビングは二人だけで静かに過ごしました。といっても、直前に一味がバスケットボールの後足首が腫れ、疲労骨折の疑いがあるということでびっこをひいていました。（来週検査なので、まだなんとも言えませんが、骨折はないと思います。でも、バスケットボールはそろそろ潮時なのかもしれません。）一味のゴルフは今年は成長しました。スコアも80代ができるようになりました。（84がベストです。）

これまでの米国生活の年数を数えてみると23年ほどになり、ちょうど人生の半分が海外生活となりました。ですから、どっちが「海外生活」なのかははっきり言えなくなっています。文化的にはちょうどバランスがとれた「二国文化状態」です。（か、どちらにも帰属しない「無文化状態」なのかも。）

一味は映画を見るときや車の運転に眼鏡が必要な程度の近視ですが、このごろ本を読もうとすると眼鏡がないほうがいいことに気がつきました。これは老眼が入り始めた証拠でしょうかね？

我が家の四つ足のメンバーも元気です。チビタンは12歳になり、暗いところが少し見えにくくなっているようです。（ちびたん：このごろ夜のトイレの時、階段がちょっと。）ミータローはのびのびと猫生を歩んでいます。（ミータロー：俺は幸せだ。）

それでは皆さん楽しいクリスマスとよいお年をお迎えください。

一味 & 由紀子